

## 全国学力・学習状況調査 本校の結果について



日頃は本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

4月に実施された全国学力・学習状況調査（第6学年対象）の結果から伺える本校の特徴がまとまりましたのでお知らせいたします。この結果を今後の学校運営に生かし、更に本校の教育活動を充実したものにしていきたいと考えております。引き続きご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 《国語科について》

- 選択式や短答式の問題で、無回答が少ない。
- 多くの児童が、時間内に問題を最後まで解くことができていた。
- ▽ 記述式の問題では無回答があり、書くことへの苦手意識が強い児童がいる。また、文を書いた後に推敲することが苦手な児童が多い。
- ▽ インタビューの意図について答える問題の正答率は、全国平均を下回った。相手の話を聞いて意図を理解したり、相手の発言を受けて話をつないだりする力に課題がある。
- ▽ 選択式の問題で、資料や選択肢の文を読み込んで消去法で正答を導き出したり、言葉の意味を正しく捉えたりする力が十分に育っていない。

### 《算数科について》

- どの問題でも無回答が少なく、意欲的に取り組んでいる。
- 台形を選ぶ問題や、小数の仕組みについての問題の正答率が、全国平均を上回った。基礎的な知識・技能が身に付いている。
- ▽ 記述式の問題の正答率が低い。特に、分数の概念について記述で答える問題は、正答率が全国平均より低かった。着目するキーワードを捉え、考えが伝わるように説明する力が十分に育っていない。
- ▽ 長く複雑な文章で問われたときに、正しく答えられない児童が多い。

## 《理科について》

- 短答式の問題では平均正答率が全国平均を上回った。
- 電気や電流、磁石に関する問題では、平均正答率が全国平均を上回った。
- 授業で観察や実験を行った内容に関する問題は、正答率が高かった。
- ▽ 選択式・記述式の問題では平均正答率が全国平均よりも下回った。特に記述式の問題では、問題の意図や答え方の条件を読み取れていないことによる誤答が見られた。学習したことは覚えているが、問題を読み解く読解力や、必要な情報を整理してまとめる力が十分に育っていない。

## 《質問紙調査について》

- 算数科や理科では、半数以上の児童が「授業が好き・得意・よく分かる」と答えていた。
- 半数以上の児童が「読書が好き」と答えていた。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」に「当てはまる」と答えた児童の割合が高かった。
- ▽ 「自分で学び方を考え、工夫する」など、主体的に学習に取り組む姿勢に課題が見られた。
- ▽ 家庭学習の時間が、全国や県と比べて短かった。
- ▽ 「朝食を毎日食べている」と答えた児童の割合が、全国や県と比べて低かった。

これらの結果と傾向をふまえて、多喜浜小では下記の4つのことを今まで以上に取り組んでいきます。

## 《多喜浜小学校の学力向上に向けた取組》

- ・ 宿題を直しまできちんと行ったり、分からない児童に個別に教えたり、タブレットやプリントで復習問題に取り組んだりすることで、計算や漢字など学習の基礎となる力をしっかりと身に付けさせる。
- ・ 日記や観察カードなど書く活動に低学年から取り組むことにより、書くことに慣れさせ、書くことへの苦手意識を軽減する。
- ・ 各教科の授業や日直のスピーチでキーワードを使ってまとめる活動を取り入れることで、語彙力や自分の考えをまとめて説明する力の向上を図る。
- ・ 朝読書や読み聞かせを通して、読書習慣を付け、読解力の向上を図る。